

令和7年度 小平市立小平第六中学校 学校評価報告書

学校教育目標

○ 敬愛 ○ 勤勉 ○ 創造

目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 ■(生徒)可能性を感じ主体的に活動して挑戦できる学校 ■(保護者)安心と信頼があり子供を通わせたい学校 ■(地域)地域や保護者、学校が協働し生徒の成長を支えていく地域とともに歩む学校
- 【目指す児童・生徒像】 ■自他を尊重し思いやりのある生徒(敬愛) ■最善を尽くし自分の行動に責任をもつ生徒(勤勉) ■他者との対話や協働を通してより価値あるものを創り出していく生徒(創造)
- 【目指す教員像】 ■生徒を慈しみ理解し、生徒の良さや能力を伸ばす教職員 ■日々研鑽に努め協働して磨き合う教職員 ■地域や保護者と共感し、対話しながら保護者や地域の信頼に応える教職員

前年度までの学校経営上の成果と課題

- 【成果】■落ち着いた学校生活により、より良い学習への取り組み状況が見られた。■話し合い活動の充実によりマイナス発言がなくなり、居場所づくりにつながった。■不登校支援の充実。
- 【課題】■粘り強く学びに向かう姿勢。家庭学習の習慣化。■対話的協働的学びへの授業改善。■特別活動を充実させ居場所づくり絆づくりを推進。自発性や主体性の育成。■不登校対策。

	具体的方策	第1回評価		指標に基づく成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	指標に基づく成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
学力向上	学習支援ソフトを用いて、宿題を配信し、実施率と正答率を確認する。単元問題から定期考査に出題等をして確認できるようにし、生徒の意識や行動を向上させる。	2 65.7%	3 52.4%	保護者アンケート結果より、家庭学習の習慣化は学習支援ソフトの導入により一昨年大きく向上したが、今年度は昨年度に比べてほぼ横ばいとなっている。全国学力・学習状況調査結果では、まだ東京都の平均より低く、本校の長年の課題といえる。	2 70%	3 54.3%	・放課後学習教室で見せる生徒の様子は、生徒の「この時間を有効に使おう」とする姿勢の高まりを感じている。 ・学校公開で見る授業も、以前はプリントを配って穴埋めをして終わりといった授業もあったが、今はよく考えられており、こちらが受けたと思う授業が増えてきた。	○取組指標の算出方法をより正確に変更(5教科配信者数/5教科教員数)。ただし、同一学年で同一教科で他者に任せている教員は配信者数に反映していない。家庭学習や学力向上の基礎は、生活力にある。大切なことは小学校の頃よりの働きかけである。家庭の教育力の向上を地域としても継続して働きかけていく。
	・(新)六中スタンダード授業状況自己チェック表で、自らの授業を振り返り、修正して新たな授業づくりを行う。 ・これからの学びについて考える研修会を実施し、授業に取り入れていく。	2 52.4%	4 91.1%	生徒による授業アンケート「説明がはっきりしていてわかりやすい」「授業が分かりやすくなるような工夫をしている」でよくあてはまる、まあ当てはまるの合計が全体では91%と高かった。ほとんどの教員が高評価の中、30~40%の教員もおり、こまめに指導を見ていく必要がある。	2 53%	4 90.1%		○大人も受けたい授業になってきている(学習支援員も驚いているという話です)。授業改善の取組をこのまま続けていく。「これからの学び」に向けた実践研究を校内研究の柱として来年度も行う。
健全育成(いじめ防止)	自他の意見を尊重し、折り合いをつけ合意形成を図る経験をさせる。学校行事等で、生徒自らが役割を果たし、集団の中で認められる経験をさせる。ボランティア活動の企画運営実践をさせ	4 95%	4 81.8%	全国学力・学習状況調査「学校生活をよくするために学級活動で話し合い、互いの良さを生かして解決方法を求めていますか」に、当てはまる、どちらかと言えば当てはまるで、東京都の平均より4%高い結果となった。話し合い活動の充実により、自他を尊重した合意形成が進んできている。	4 95.9%	4 78.1%	・地域の健全育成を考えたときに、地域の保護者同士の横のつながりが弱く、お互いに学校の様子の情報が入らない。保育園や幼稚園時代はお互いに働いていて、子供を預けるので、助け合う気持ちが強い。 ・体力が落ちていると感じる。	○登下校時の様子を見てみると、六中全体の様子として男女分け隔てなく、お互いに意見を言い合える雰囲気がある。特別活動の取組を続けていく。体力向上に向けた取組(体育科授業、部活動、運動会指導、食育等)を行っていく。
	企画会2部としていじめ問題対策委員会を毎週実施し、いじめについての学年対応などを話し合う。不登校生徒のそれぞれの事情を考慮し、個に応じた適切な不登校対応を各学年で行う。	4 100%	4 76.5%	教員アンケート「問題行動に対して、家庭や地域・関係諸機関との連携を密にし、早期発見・早期対応を図ることができたか」に対し、当てはまる、やや当てはまるが100%となった。特別の教科「道徳」で思いやりに関したいじめ防止を5回以上行った教員が87.5%であった。	4 100%	4 78.6%		○いじめを口にする生徒はいないが、SNSを利用した嫌からせ等が毎年起こる。SNS利用の進歩はとても早く、生徒は順応しているが、教員の指導が後追いになっている。生徒の内面、心理的な抑制ができるような働きかけを行っていく必要がある。
学校経営	地域と連携したCSの活動により、学校の教育課題の解消に迫る。六中地区の小中で統一した取組により、中1ギャップの解消と家庭の教育力向上を図る。	3 84.2%	4 75.1%	「デジタルを活用したこれからの学び」研究推進地区として、小中で連携し授業改善に取り組んでいる。CSと協働した不登校支援「6中CS農園芸教育」を実施した。CSと連携協働し、6中生からボランティアを募り、地域への活動(青少対活動他)へ参加した。地域活動の活性化を図った。	4 91.6%	4 74.3%	・部活動見学会やようこそ六中の取組は、中1ギャップ解消の一助になっていると感じる。 ・保護者アンケート結果よりコミュニティ・スクール六中地区三校協働を知らない保護者が20%いる。	○CS会議については、コミュニティースクールたよりを配布し、活動内容を知らせていたが、保護者の中には、学校、保護者、地域の連携がどのように進められているのか、よくわかっていない方もおられる。学校教育への意識を高める工夫が必要。
	CS推進委員会等でプロジェクトの内容を検討し実施する。教育活動をHPや学校メールなどにより発信する。地域施設(小平福祉園など)との連携協働のもと不登校学習支援を行う。	3 87.1%	4 83.9%	7月の保護者アンケート「学校は、情報発信を積極的に行っている。」よくできていると大体よく合わせて92.6%であった。CSプロジェクトの取組を継続する。CSと生徒会役員との話し合いをもった。今後もCSと生徒会が連携し、生徒が自発的主体的に関われる活動の創造を目指す。	4 92.4%	4 84.8%	・CS委員と生徒会役員との話し合いは、地域の話や伝えられ、また、生徒の声を生で聞ける良い機会となった。	○六中と福祉園のつながりはとても良い。六中生のボランティアを活動をさらに活性化し、地域(例えば公民館での活動)等でもっと活躍の場を広げて行けいく取組があればさらに良い。
キャリア教育	伸ばす4つの力の確認と意識づけ(年度始めと学期終わりにキャリアパスポートを利用して意識づけと振り返り)を行う。講演会、職場体験、道徳授業等を通して生き方を考えさせる。	4 94.7%	3 63.1%	各学年で職業や上級学校調べ、職業体験学習、ハローワーク連携学習を行なっている。保護者のよくできている、だいたいできているが63.1%とやや低い。アンケート実施時、職場体験学習は未実施。学校日よりやHP等で実施中、実施後の情報を配信してさらなる理解を深めていきたい。	4 95.6%	3 67.6%	・キャリア教育は学年ごとに体系化され、よい取組ができていると感じる。 ・地域の活動や地域とのつながりが、固定した限られた人たちのみとなっており、学校教育の変容を地域の方々にはよく知らない。	○進路学習活動を行事の1つではなく、「キャリア教育」の1つとして受け止められる配信が、生徒にも保護者にも必要と思われる。職場体験学習の場所をもっと六中地域で実施できるようになると、地域を意識した効果的な活動になる。
	生徒のボランティア活動や地域行事(地域清掃活動、青少対活動体験等)への参加を促進する。CSとの連携を図り、ボランティアとして生徒が参加しやすい枠組みを検討し実現していく。	3	4 75.1%	地域活動部の活動を広げた。CSと連携し協働することで、教員が引率できない時でも、部活動ではなく、6中のボランティア活動として地域活動への参加した。六中地区まちづくり宣言を受けて、生徒会を中心としたボランティアで、地域清掃を地域の方に挨拶を行いながら実施した(90名参加)。	4 7回	4 74.3%		○地域と協力し、高齢者の集まる場所で、地域との交流などの工夫を行えたら良い。6中生が地域に出て行って地域のために活躍できる機会を増やす。
防災教育	・避難訓練の適切な実施。 ・災害に対する意識を高めるため、防災教育を道徳、総合的な学習の時間を活用し適宜実施する。	2 7	4 84.6%	教員の取組指標は回数合計である。毎月、避難訓練と安全指導を行っており、積みあがることで取組指標は上がると考える。	3 11	4 82.9%	災害を自分事としてとらえることが大切であり、自分の身の回りを整頓する等の意識をしていくことから始めていく。	○地域で起こりえる災害を考えてみる。災害体験をされた方に話をさせていただくなどを行ってはどうか。社協ボランティアを通じて講師はすぐ見つかる。
働き方改革	・長時間勤務者への面接指導実施。 ・同僚性を高め助け合う雰囲気を醸成し年休等取りやすい体制づくりを行う。 ・自分事として捉える服務防止研修の実施し、チェックシートで確認する。	4	4 100%	週当たりの在校時間80時間以内の達成率は100%である。副校長からの声掛けにより教員が勤務時間の削減を意識的に行ってきている。年休や男性の育休取得については、教員相互の助け合いにより、取りやすい環境にある。男性育休2名取得。	4 約60回	4 100%	最近はや望がないが、学校教育に人は足りているだろうか。	○予算がつかない時にボランティアで対応できるので、学校から配信する。